

小学校 音楽科 事例を通じた評価の具体例

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料P73～79

音楽科 事例3
キーワード 「思考・判断・表現」の評価

題材名
「和音に合わせて旋律をつくろう」(第5学年)

内容のまとめり
【第5学年及び第6学年】「A表現」
(1)音楽づくり 及び【共通事項】(1)

1 題材の目標

- (1)和音の響きとその移り変わりや、和音と旋律との関わりについて、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2)音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律を工夫し、どのように全体のまとめりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3)和音と旋律との関わりや、音楽の仕組みを用いて旋律をつくることに興味・関心をもち、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組み、様々な音楽との関わりを通して音楽の縦と横との関係に親しむ。



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知:和音の響きとその移り変わりや、和音と旋律との関わりについて、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解している。</p> <p>②技:思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係を用いて、音楽をつくる技能を身に付けてリコーダーで旋律をつくっている。</p>	<p>思①:音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。</p> <p>思②:音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態①:和音と旋律との関わりを生かして音楽をつくる活動に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

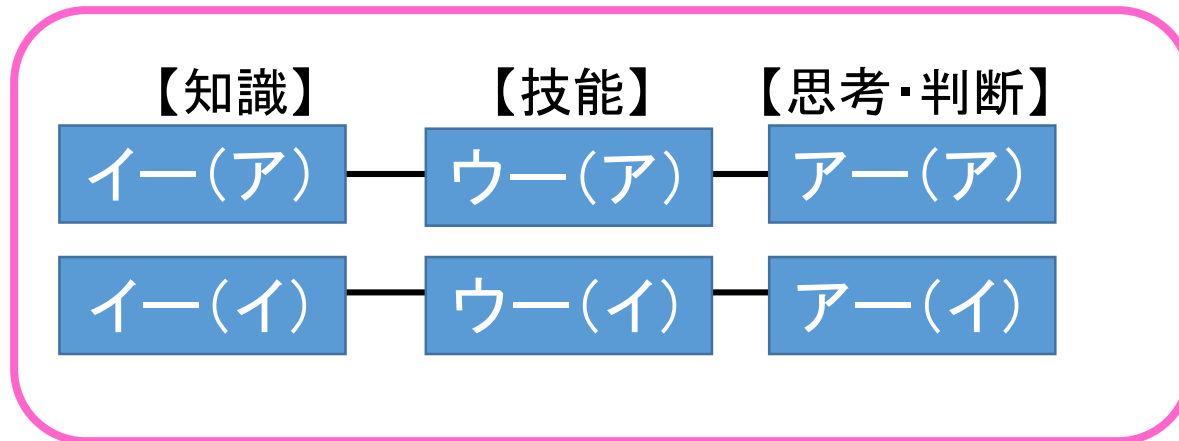
3 指導と評価の計画(4時間)

時間	◎ねらい・ ○学習活動	評価規準(評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	◎和音やその移り変わりを聴き比べたり、即興的に旋律をつくって表現したりする活動を通して、音楽の縦と横との関係について考えながら、和音と旋律との関わりについて理解する。 ○和音の移り変わりを様々に試しながら聴き比べ、旋律と和音との関わりが生み出す雰囲気の違いを感じ取る。		思① 発言・記述 (鑑賞→意見交換、ノート)	行動観察
2	◎和音やその移り変わりを聴き比べたり、即興的に旋律をつくって表現したりする活動を通して、音楽の縦と横との関係について考えながら、和音と旋律との関わりについて理解する。 ○設定された条件に基づいて、即興的に旋律をつくって表現し合う。	知① 発言・記述 (ノート)	行動観察 (音楽づくりの様子)	行動観察
3	◎和音の響きやその移り変わり、和音と旋律との関わりについて考えながら、全体のまとまりを意識した旋律を工夫し、音楽の縦と横との関係を用いて旋律をつくる。 ○「C-F-G-C」の和音進行を聴きながら旋律をつくる。			行動観察
4	◎和音の響きやその移り変わり、和音と旋律との関わりについて考えながら、全体のまとまりを意識した旋律を工夫し、音楽の縦と横との関係を用いて旋律をつくる。 ○和音と旋律との関わりや全体のまとまりを考えながら旋律をつくる。	技② 聴取・記述 (記譜・発表)	思② 発言・記述 (意見交換・ノート)	態① 行動観察・記述 (ノート)

4 音楽づくりの授業構想における評価規準の設定について

(ア)のまとめり「発想を生かした表現」→即興的に表現する活動

(イ)のまとめり「思いや意図に合った表現」→音を音楽に構成する活動



+ 【共通事項】ア

(ア)(イ)両方に関連した題材もあり得る



(ア)、(イ)のどちらを習得を目指す資質・能力とするかで、評価規準の設定が絞られる。

5 指導計画と観点ごとの評価について

第一次の指導と評価計画 ※思①では学習状況を記録に残す評価

次	◎ねらい ○学習内容	活動の様子や児童の発言例等
第一次	◎和音やその移り変わりを聴き比べたり、 即興的に旋律をつかって表現 したりする活動を通して、 音楽の縦と横との関係について考えながら、和音と旋律との関わりについて理解する。	
	1時	<p>○和音を聴き取り、その働きを感じ取る</p> <p>○和音の移り変わりを様々に試しながら聴き比べ、旋律と和音との関わりが生み出す雰囲気の違いを感じ取る。</p>
2時	<p>○和音と旋律との関わりについて、楽譜を確かめながら考える。</p> <p>○設定された条件に基づいて、即興的に旋律をつかって表現し合う。</p>	<p>(複数の和音の繋がりを聴いて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か合わない感じがする ・落ち着く感じがする ・旋律と和音との関係には、秘密がありそう。 <p>思①の評価 (発言・記述内容で評価)</p> <p>思いや意図をもって音楽をつくることができるようになるきっかけとする。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・旋律は和音以外の音も使われている。 ・和音の音から隣の音に行ったり、和音の音と音をつないだりしている。 <p>知①の評価 (発言・記述内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和音と旋律との関係が深いことがわかった。 ・旋律をつくる時、和音の音から始めると合いやすいことがわかった。

6 指導計画と観点ごとの評価について

第二次の指導と評価計画

次	◎ねらい ○学習内容	活動の様子や児童の発言例等
第二次	◎和音の響きやその移り変わり、和音と旋律との関わりについて考えながら、 全体のまとまりを意識した旋律を工夫し、音楽の縦と横との関係を用いて旋律をつくる。	
	3時 ○音楽をつくるための見通しをもつ。 (和音の進行にのった旋律の演奏を聴いて、気付いたこと、感じ取ったことを発表する。)	(様々な旋律を聴かせて) ・和音に合っていない。 ・細かいリズムもいれたい。 ・隣の音を使って変化を付けてはどうか。
	○「C-F-G-C」の和音進行を聴きながら旋律をつくる。	・最初は和音の音を中心に旋律をつくっていたが、 カッコよくなったので、隣の音や続く感じの音を入れたり、細かいリズムを使ったりした。 ・和音の音からはじめて、 最後は終わる感じにするために「ド」で終わるようにした。
4時	○和音と旋律との関わりや 全体のまとまりを考えながら 旋律をつくる。 ○全員の旋律を発表する。	・和音の音以外にもたくさんの音を上手に使っていて面白い。 ・AA`形式でつくろうと思ったが、 新しい旋律をつくりたいと考えたのでAB形式でつくった。

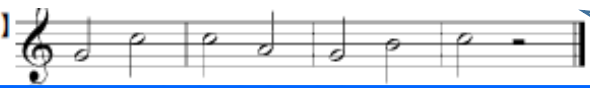
思②の評価
(発言・記述内容)

旋律をつくりあげる課程において「このように旋律をつくりたい」という、思いや意図が含まれていること。

7 「思考・判断・表現」の評価について

「努力を要する」状況(C)と判断されそうな児童へのはたらきかけの例

【児童の旋律例】

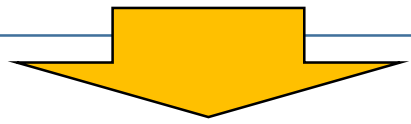


- ・旋律は和音の構成音から選んでいる。
- ・思いや意図を見とることは難しい。

教師：旋律を4小節につくることができましたね。
 つくるときにどのようなことを考えましたか。
 児童：なんとなく和音の音からはじめるようにして4小節つくりました。
 教師：終わりの音は、どうしてこうしたのですか。
 児童：シからドに上がると、和音にも合っていて落ち着いた感じがしたからです。
 教師：そうですね。音と音のつなげ方で、どういう感じになるかを考えることは大事です。

- ・思考・判断・表現の状況を把握できない。
- ・演奏後に思いや意図をたずねてみる。

思いや意図を持つことができていることを確認し、価値づけた。



児童の発言から思いや意図を確認することができれば、この時点で「おおむね満足できる」状況(B)には達していると判断される。

8 「思考・判断・表現」の評価について

「十分満足できる」状況(A)と判断した例

- 自分なりの考えをもって、音楽の縦と横との関係を意識しながら、【つくる時の条件】を自ら広げたり、変化させたりしている児童の発言例や記述例
 - ・音域を広げたかったので、低いドから高いファの音を使うようにした。でも、音の高低が激しくならないように気を付けながらつくるようにした。
- 音楽の縦と横との関係について深く考えながら旋律をつくったり、音楽の縦と横との関係に加えて旋律やリズムについても考えながらつくったりしている児童の記述例や発言例
 - ・まずはA-A'でつくろうと考えました。全部のフレーズを山のようにして、次の音へのつながりを意識してつくりました。そして、前半はリズムを細かくするために音を増やしたり、後半は高いミの音を試したかったので、シの音からだんだんと上がるようにしました。

